

(大学改革公開シンポジウム 2013)

主催 広島大学大学院生物圏科学研究科

共催 一般社団法人 国立大学協会

教育関係共同利用拠点による教育改革シンポジウム
～食農環フィールド教育施設を用いた人材育成～
報告書

平成 26 年 1 月

広島大学大学院生物圏科学研究科
附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター
西条ステーション(農場)
竹原ステーション(水産実験所)

広島大学生物生産学部 附属練習船豊潮丸

巻 頭 言

今年、教育関係共同利用拠点制度が施行されて 5 年目を迎えます。本制度では、大学の機能別分化および大学間ネットワークの構築促進を目的に、各大学が各々の強みを持つ分野へ取組を集中・強化するとともに、他大学との連携を進めることによって、大学教育全体としてより多様で高度な教育を展開していくことが期待されています。

現在、40 拠点が文部科学大臣により教育関係共同利用拠点として認定を受け、内 19 件は練習船、農場、演習林および水産実験所等の農学系の附属施設が占めています。これは、附属施設関係者が長年に亘って取組んできたフィールド教育が、学生の行動力や主体的な学習態度を養う上で、優れた教育方法であると広く認知されつつあることの表れであり、学士課程教育全体へフィールド教育を活用していくことが期待されています。各拠点による取組みを通して、共通的な成果がある一方で、附属施設の種類によって教育内容や教育方法が異なり、得られる成果も多様であるのが実態です。

大学院生物圏科学研究科は、平成 25 年 11 月 23 日（土）、広島県民文化センターにおいて、国立大学協会の共催により、「教育関係共同利用拠点による教育改革シンポジウム～食農環フィールド教育施設を用いた人材育成～」を開催しました。

第 I 部のポスターディスカッションでは、文部科学大臣による認定を受けた全国の練習船、農場、演習林および水産実験所における拠点事業の取り組み（19 拠点すべて）がポスター展示で紹介され、拠点担当者間での活発な情報交換が行われました。

第 II 部のパネルディスカッションでは、まず文部科学省高等教育局専門教育課の小谷直和課長補佐から拠点の現状と今後についてのコメントを頂きました。その後、全国水産・海洋系学部等協議会の松岡達郎会長、全国大学附属農場協議会の居城幸夫会長、全国大学演習林協議会の吉岡崇仁会長にご講演頂き、さらに利用者の立場から教育ネットワーク中国の川野祐二代表理事よりご講演を頂きました。引き続き行われた、参加者を交えた総合討論では、各種フィールド施設の役割と機能、教育改革の方向性などについて活発な意見交換が行われました。

本シンポジウムには、全国から約 80 名の方にご参加頂き、第 I 部および第 II 部において充実した議論が行われました。本シンポジウムでは、各施設で得られた多様な成果を共有する場が提供できたと確信しております。

本報告書には、第 I 部で紹介された全ポスター、第 II 部でご講演者が使用されたスライドおよび総合討論における質疑応答の要約が掲載されています。本シンポジウム企画者の一人として、この報告書が、各大学における今後の教育関係共同利用拠点事業の一助けになれば幸いです。

瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター長
シンポジウム実行委員長
前田 照夫

目 次

第Ⅰ部 ポスターディスカッション 「教育関係共同利用拠点の取り組み」

農場	東北大学	1
	宇都宮大学	2
	信州大学	3
	静岡大学	4
	広島大学	5
	宮崎大学	6
水産実験所	京都大学	7
	広島大学	8
練習船	北海道大学	9
	東京海洋大学（神鷹丸）	10
	東京海洋大学（汐路丸）	11
	三重大学	12
	広島大学	13
	長崎大学	14
演習林	鹿児島大学	15
	北海道大学	16
	筑波大学	17
	新潟大学	18
	静岡大学	19

第Ⅱ部 パネルディスカッション 「教育関係共同利用拠点における人材育成機能」

「教育関係共同利用拠点制度による附属練習船の利用」	松岡 達郎	21
「農場拠点における人材育成機能」	居城 幸夫	26
「演習林拠点における人材育成機能」	吉岡 崇仁	37
「共同利用拠点の利用者の立場から」	川野 祐二	41
質疑応答, 総合討論 要約		49

第 I 部 ポスターディスカッション

「教育関係共同利用拠点の取り組み」



東北大学大学院農学研究科

附属複合生態フィールド教育センター 複合陸域生産システム部 (川渡フィールドセンター)

食と環境のつながりを学ぶ複合生態フィールド教育拠点



東北大学・川渡フィールドセンターでは、広く他大学の学生に、「食」と「食を支える」、そしてそれらのつながりを、広大なフィールドで体感しながら学ぶ場を提供しています。

森林 **家畜管理** **農耕地** **資源循環**

複合生態フィールド

東北大学大学院 農学研究科 附属複合生態 フィールド教育研究センター 複合陸域生産 システム部 (川 渡フィールドセンター) は、2,000ha を越える広大なフィールドを有し、それを活用した最先端の教育 研究 と、それらの研究成果に基づくフィールド教育を実施しています。

本センターは、「食と環境のつながりを学ぶ複合生態フィールド教育拠点」として文部科学省より「教育関係共同利用拠点」(平成23年度-27年度)に認定され、他大学の学生へフィールド教育プログラムを広く提供しています。

教育プログラムとして、受講者の専門性を配慮し、3タイプ(「レディメード型」「ギャザリング型」「オーダーメード型」)を開講しています。



レディメード型講義

食物生産フィールドを体感し、環境問題に対する感性を磨く

フィールド環境学 (9月中旬に開講予定)

基本プログラム

食と環境のつながりを探るフィールド講義
(農耕地・家畜管理・資源循環・森林)

フィールドを体感する

課題研究

少人数で課題を設定し、フィールド調査を行う
フィールド講義をふまえ、食育に関してより深く考える

問題意識を持つ

研究発表

課題研究の結果を発表し、意見交換を行う

ディスカッションで
理解を深める

課題研究テーマ

水田と稲、森のキノコの働き、草地と畜産
農業と水環境のつながり、「いのち」にふれる(食育)



フィールド講義



課題研究



研究発表

オーダーメード型講義

教育目的に合わせて実習をオーダーメード

当フィールドセンターで実施可能なフィールド講義・実習等の素材を提供し、他大学教員の教育目的に沿った実習プログラムを提供いたします。

実習素材の例

- 水田の水生生物調査
- イネの有機栽培に関する講義
- 農作物収穫実習(米、ブルーベリーなど)
- 樹木探査実習・森林生態系に関する講義
- 草地の植生調査
- 家畜の行動調査・動物福祉に関する講義
- 資源循環に関する講義

実習例

仙台白百合女子大学(80名)2012年度	
10:00-11:30	肉牛の給仕体験・資源循環施設の見学
11:30-12:30	昼食
12:40-13:40	イネの有機栽培に関する講義
14:00-14:30	牛乳生産に関する講義
14:40-15:30	ブルーベリージャム作り実習

ギャザリング型講義

東北大学農学部の特設実習に参加

受け入れ可能な実習、実習内容についてはwebページをご覧ください。

URL <http://www.agri.tohoku.ac.jp/noujou/events/gathering.html>



- 音段は栄養学や食品生産・加工について学んでいるが、食物の生産現場を見ることで理解が深まった。(仙台白百合女子大学)
- 森林が持つさまざまな役割を実感できた。(福島大学)
- 様々な食物生産現場や生態系に関して実際にフィールドで見て感じるにより、食と環境の繋がりを学ぶことができた。(宮城大学)
- 専門の異なる他の大学の学生と話し合うことは勉強になり、良い刺激になった。(宮城学院女子大学)

利用状況

H24年度	12校	計153人
H25年度 (10月現在)	11校	計270人

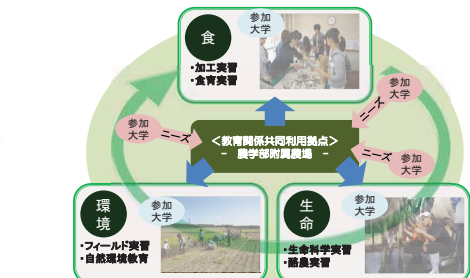
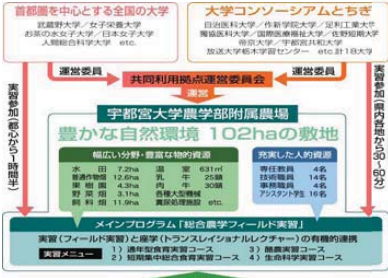
首都圏における 食・生命・環境の複合型フィールド教育共同利用拠点

認定施設：宇都宮大学農学部附属農場
認定期間：平成22～26年度



拠点活動の全体像と特色

実習内容と実施実績



- ### 特色
1. 都心から約1時間半の近郊
 2. 豊かな自然に囲まれた**広大な敷地**
 3. 約55名が宿泊可能な**学生宿泊施設**
 4. 調理実習が可能な**厨房と倉庫**
 5. 作物・園芸・畜産・農業機械の各分野を1箇所に集約した**分野複合型実習環境**
 6. 新たに**食品加工分野と分析分野**も展開
 7. 産学と実習の**連携**

実施状況

参加大学	予算・経費
平成22年度：4大学(のべ約160名)	学内予算：講義等・宿泊施設の整備
平成23年度：6大学(のべ約220名)	特別経費：実習設備の整備
平成24年度：7大学(のべ約400名)	特別整備費(拠点高度化)：
平成25年度：7大学(のべ約500名)	加工・分析設備の充実

実習の様子

- 1) 通年型食育実習コース(作物・園芸分野)
 - 5月から12月にかけて日帰り(10~20泊程度)で実施する。
 - 水稲等の食用作物と果樹(梨、栗、柿、ぶどう)や観賞植物などの園芸作物について、種から収穫・出荷までの一連の栽培管理と学芸に体験する。
- 2) 短期集中型総合食育実習コース(作物・園芸・畜産・機械分野)
 - 宿泊施設を活用して、2泊3日ないし3泊4日で実施する。
 - 花・果樹や野菜の栽培管理、養蚕や野鳥の保護、食用作物の管理、大型農業機械の操作体験、ウシの飼育管理などを集中的に体験する。
- 3) 畜産実習コース(畜産分野)
 - 宿泊施設を活用して、1泊2日ないし2泊3日で実施する。
 - 乳牛への給乳、搾乳、仔ウシへの哺乳、ヒツジの産乳、乳製品加工実習を体験する。
- 4) 生命科学実習コース(畜産分野)
 - 1泊2日ないし2泊3日で実施する。
 - 畜産場では分子検査や種や遺伝子などの生命科学実験を行い、牛舎では人工授精や妊娠検査、妊娠検査結果による子宮内胎子の観察実習などを行う。
- 5) 上記2~4)を組み合わせたオーダーメイド実習

例. 平成24年度 お茶の水大学大学院

1日目	2日目
9:00 お茶の水女子大 出発	6:00 朝食準備
10:30 宇都宮大学農学部附属農場 到着	7:00 朝食
10:35 附属農場長挨拶	ウシの搾乳実習/ヒツジの飼育管理実習
10:40 オリエンテーション	9:30 園芸概論
11:15 酪農概論	10:30 果樹(ナシ)収穫実習
12:15 昼休み	12:00 昼休み
13:15 ウシの泌乳機序とヒツジの科学	13:00 宿舎清掃・荷運び
14:30 ウシの飼育管理実習	14:00 ウシの生殖科学概論
17:00 ウシの搾乳実習/ヒツジの飼育管理実習	14:45 ウシの生殖科学実験
18:30 夕食	16:30 アンケート・閉講式
19:30 学生交流会	17:00 出発
夜間 乳牛の分娩介助と新生子管理実習	18:30 解散

内容

■園芸分野
「果樹」野菜(「花」)について幅広く概論を講義し、園芸や育種の見方と時期に合わせた収穫を実施。

■作物分野
水稲栽培における栽培・収穫・調整の一連の過程について実習時間に合わせて実習および収穫した水稲の成分分析を実施。

■作物機械分野
講義や種々の作業機械の見学を実施。

■獣医学分野
乳牛の飼育管理実習に際しては、動物場でのウシのスクリーニングを経て、牛舎で分娩観察、給乳、搾乳、人工繁殖技術の見学を実施。ウシの分娩介助と新生子管理実習も一部の大学において実施。

■ウシの生殖科学分野
人工繁殖技術の解説後、ウシ飼育場から顕微鏡、顕微鏡、顕微鏡などを実際に自分の手で実施。

■ヒツジの飼育管理実習
ヒツジの飼育管理実習に関する概要と、実験動物として活用する特性について講義し、管理施設見学や毛刈実習を行った。

■収穫物を用いた調理・加工・後習実習
実習場で収穫した作物(野菜や果物)を用いて調理、加工しながら食育実習を実施。主にミルクアシークリームを作業。

	乳用牛の飼育管理実習	乳牛の分娩介助 新生子管理実習	ウシの生殖科学実験	アイスクリーム加工実習	水稲収穫実習	果樹・野菜収穫実習
楽しさ	89%	72%	80%	92%	78%	81%
有益さ	91%	100%	85%	80%	67%	74%

■ とても楽しかった/とても有益だった ■ まあまあ楽しかった/まあまあ有益だった ■ あまり楽しなかった/あまり有益でなかった ■ つまらなかった/有益でなかった

実習補佐の学生の成長



- ◆ 参加学生が積極的だったので、**楽しく説明することができた。**
- ◆ 他大学との交流は**とてもいい刺激**になった。
- ◆ 自分の研究に興味を持ってもらえたので、**今後より頑張っていく意欲が増した。**
- ◆ 参加学生の新鮮な反応を見て、自分のいる環境やそこで勉強していることが、**とても貴重なもの**であることを実感した。
- ◆ 真剣に取り組んでいる参加学生のために、自分たち**よりよい実習を提供できるように**努めているかなければならないと感じた。
- ◆ 異分野の学生との交流により、**自分自身の視野を広げることが出来た。**今後のTAや研究に活かしていきたい。

総括

生命 食 農 自然 環境

従来の農業に関する実践的な学びの場としてだけでなく、**生命、食、自然、環境の学びの場**として、さらには**人間形成の場**として、附属農場の新しい価値がある。

↓

- 1) 農学部に限らず、**生命、環境、あるいは教育などの様々な学部の基盤ならびに専門教育の場**として有用である。
- 2) 農学部生は、異分野の学生との交流を通じて、自らの学びの意識を再認識し、視野が広がることにより、**より実践的で総合的な能力を養う**ことができる。

信州大学農学部

附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター

野辺山ステーション：中部高冷地域における農業教育共同利用拠点
—高冷地野菜と畜産を組み合わせたフィールド教育—

環境・施設：標高1351m, 面積21ha, 宿泊施設1棟 (60名宿泊可能)

実施体制：教員5名, 技術職員6名, 事務職員7名

実習内容：高冷地野菜・作物栽培と繁殖和牛の飼育等

ハヶ岳山麓, 野辺山高原の豊かで厳しい自然と高冷地農業の学びの場

*野菜, 作物, 畜産を組み合わせた循環型農業に関する教育・研究

*他大学の学生・教員が自然環境を利用できる体制の構築

*地域, 次世代に還元できる特色ある高冷地フィールドの教育関係共同利用拠点の運営

信州大学生への教育・研究
フィールドの提供

関東・中部圏等の農学系
他大学の教育・研究
フィールドの提供

関東・中部圏等の非農学系
他大学の教育・研究
フィールドの提供

高冷地の環境を利用した教育・研究の展開と提案

高冷地フィールド科学演習のスケジュール例

高冷地フィールド科学演習Ⅰ

高冷地フィールド科学演習Ⅱ

高冷地フィールド科学演習Ⅲ

高冷地フィールド科学演習の開講
(夏季集中, 対象学生の異なる3回を実施)



収穫・出荷準備

日程	4/20-21	5/10-12	5/20-22	日程	6/10-12	6/20-22	7/10-12	日程	8/10-12	8/20-22
18日	18日 18時-20時 開講式・説明会	18日 18時-20時 開講式・説明会	18日 18時-20時 開講式・説明会	18日	18日 18時-20時 開講式・説明会	18日 18時-20時 開講式・説明会	18日 18時-20時 開講式・説明会	18日	18日 18時-20時 開講式・説明会	18日 18時-20時 開講式・説明会
19日	19日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	19日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	19日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	19日	19日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	19日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	19日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	19日	19日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	19日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習
20日	20日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	20日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	20日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	20日	20日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	20日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	20日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	20日	20日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	20日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習
21日	21日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	21日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	21日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	21日	21日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	21日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	21日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	21日	21日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	21日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習
22日	22日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	22日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	22日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	22日	22日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	22日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	22日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	22日	22日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	22日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習
23日	23日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	23日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	23日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	23日	23日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	23日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	23日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	23日	23日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	23日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習
24日	24日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	24日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	24日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	24日	24日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	24日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	24日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	24日	24日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	24日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習
25日	25日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	25日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	25日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	25日	25日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	25日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	25日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	25日	25日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	25日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習
26日	26日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	26日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	26日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	26日	26日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	26日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	26日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	26日	26日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	26日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習
27日	27日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	27日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	27日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	27日	27日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	27日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	27日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	27日	27日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	27日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習
28日	28日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	28日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	28日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	28日	28日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	28日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	28日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	28日	28日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	28日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習
29日	29日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	29日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	29日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	29日	29日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	29日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	29日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	29日	29日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	29日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習
30日	30日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	30日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	30日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	30日	30日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	30日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	30日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	30日	30日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	30日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習
31日	31日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	31日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	31日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	31日	31日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	31日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	31日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	31日	31日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習	31日 9時-12時 高冷地野菜の栽培実習



圃場整備



集荷場見学



牛の飼養管理



自然観察



ソバ加工

高冷地の自然や農業を「体験」する演習プログラム



オープンフィールドの開設
高年次学生の研究教育の場を提供



他大学と共同で開講する実習
「12のプログラム」を提案



食育に関する教育の場を提供

*利用案内・支援

- ・ HP：詳細な施設紹介, 予約カレンダーの掲載, 実習開講情報の公開
- ・ プログラムの提案・提示, コーディネーターによる相談・受付

静岡大学農学部 附属地域フィールド科学教育研究センター 藤枝フィールド

拠点の特色

温暖で豊かな東海地域農業を体験できる教育施設

茶・ミカンなどの特徴ある地域農業

栽培から加工までの
網羅的な実習が可能

例：茶園の管理実習から製茶工場見学まで



次世代型農業を実習に

学内ベンチャー※との連携により
植物工場を利用した実習が可能

例：トマト管理実習から加工実習まで



※(株)静岡アグリビジネス研究所

平成25年度の取り組み

習熟度に応じたフィールド教育プログラムの展開

導入型：フィールド科学演習



・茶摘みから手もみ製茶まで
一連の流れを体験実習



・12月の演習で用いる
ミカンの現状を観察

年間通した作物の
栽培を体験

発展型：先端フィールド科学演習

- ・専門性の高い講義・調査演習
(水稲などで展開)
- ・今年度新設(12月開講予定)

他大学開講科目の受入

- ・非農学系科目にフィールド教育を
積極的に組込
(家政、栄養、情報、水産など)
- ・静岡産業大学、英和学院大学、
和洋女子大学、東海大学

来年5月に公募による「フィールド科学演習」を開講します。
大学・短大・高専(4, 5年)生であれば個人で応募できます。
お問合せは、nojojimu@adb.shizuoka.ac.jp



広島大学における共同拠点の取り組み

—平成25年度の取り組みを振り返って—

広島大学大学院生物圏科学研究科

谷田 創



1

教育関係共同利用拠点の認定

認定対象：広島大学大学院生物圏科学研究科附属
瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター
西条ステーション(農場)

拠点名：食の生産環境と安全に配慮した
循環型酪農教育拠点

期間：平成22年6月10日～平成27年3月31日



2

キャンパスから農場まで自転車で15分



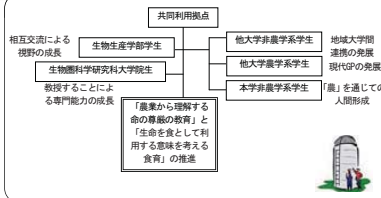
3

他大学向け授業の実施体制

役割	担当
実施責任者	センター長
授業の企画立案	農場専任教員(3)
実施者	農場専任教員、農場兼担教員(15)、農場技術職員(10)
履修・単位関係事務	生物圏科学研究科支援室(学生支援グループ)
拠点コーディネート・事務	コーディネート担当の助教(1)及び事務系職員(2)
教育共同利用の運営	教育共同利用推進小委員会

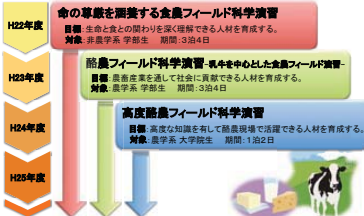
4

共同利用による教育効果のねらい



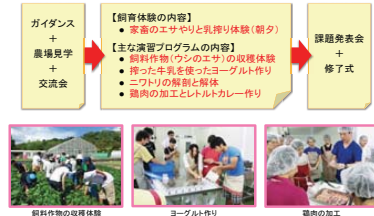
5

教育拠点として提供する演習科目



6

命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習(3泊4日)(非農学系学部生)



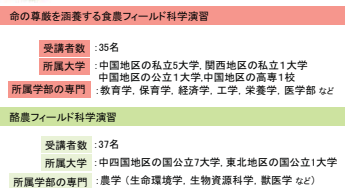
7

酪農フィールド科学演習(3泊4日)



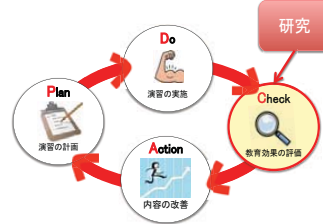
8

平成25年度の受講状況



9

教育の研究化:教育の質の向上を目指して





九州畜産地域における産業動物教育拠点 宮崎大学農学部附属FSC・住吉フィールド（牧場）



住吉フィールドの教育・研究態勢



住吉フィールド（牧場）利用と目的



実習計画（赤は学外からの利用。平成25年度～）

学生実習	学内	学外	日数	人・日	年度														
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
					上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
フィールド体験講座（全学）	30		1	30															
畜産草地科学科入門セミナー	10		2	20															
畜産草地科学科基礎実習	50		1	50															
畜産草地科学科基礎実習	50		1	50															
フィールド実習学	30		1	30															
牧場実習Ⅰ（前半：全体実習）	50		2	100															
牧場実習Ⅰ（後半：個別実習）	10	10	10	100															
牧場実習Ⅱ（前半）	46		3	138															
牧場実習Ⅱ（後半）	46		3	138															
畜産学実習	30		4	120															
家畜防疫環境管理実習	50		1	50															
動物生産実習実習	20		2	40															
獣医臨床実習実習	30		1	30															
適正畜産生産実践実習（三大連携）	10	25	2	70															
産業動物適正管理入門実習（大阪府立大学）			8	5	40														
動物施設実習実習（九州保健福祉大学）			15	4	60														
乳加工実習（南九州大学）			20	1	20														
牧場フィールド体験実習（学外非営利）			5	3	15														
産業動物適正管理入門実習（学外産学）			5	4	20														
計	462	78	51	1121															
その他	学内	学外	日数	人・日	年度														
JICA研修（口蹄疫防疫対策の一部）	10		2	20															
産業動物実習実習（全国大学若手教員）	5		1	5															
畜産動物実習実習（畜産関係者）	15		2	30															
畜産技術研修（産地研修）	10		1	10															
畜場実習（みやざき中央変遷学校高等部）	10	14	140																
作業体験実習（小・中・高）	40	2	80																
学外体験実習（小・中・高）	20	1	20																
市内中学校職場体験実習	5	5	25																
公開講座（産地体験）等	20	3	60																
幼稚園・保育所実習	50	2	100																
牧場開放事業	2000	1	2000																
計	2185	34	2490																

詳しい内容につきましては、住吉フィールドのホームページ <http://www.miyazaki-u.ac.jp/sfield/> をご覧ください。